

「有利」、「活用」の 本当の意味を考えたい

3月議会の一般質問で、「国の動向を見て」という答弁が何度も繰り返されました。

予算でふれたように、春日部市は「国が面倒を見てくれる借金」を「有利な借金」として、種々の事業を進めています。

これは春日部だけでなく、財政力の弱い自治体では無理からぬことなのでしょう。

ここで問題なのは、国からの支援を受けるということは、そのために国が設定した条件に合わせて、事業を進めなければならないことです。

国基準にとらわれず春日部市 の実情に沿った事業を

その中でも工夫の余地はある、と思うことはしばしばあります。たとえば平成26年度の予算では、「耐震改修事業補助金」が、前年度の900万円から600万円に減額されています。その理由は、申請件数が少ないからとのことでした。

確かに答弁にあったように、数百万円の費用が掛かる耐震補修工事をするなら、建て替えたほうが良いと判断したり、老人だけが住む家に

そんなにお金はかけられない、と考へたりする人が多いのはわかります。

しかし、大地震の際、一人でも多くの人命を守ることが目的の施策です。申請件数が少ないから、と安易に減額してもいいのでしょうか。

ご高齢の方で大がかりな工事は無理、という場合は、一室だけを補強してシェルターにする耐震工事があります。この工事であれば、数十万単位の費用で済むとのこと。

この工法による耐震工事も対象にできないのはなぜか。それは、この補助金の40%が国の交付金となっているからで、簡易な耐震工事は対象とならないからでしょう。

しかし、春日部市では、ご高齢の方に対しては補助金は増額しています。この増額分、市が単独に簡易工事についての補助を賄うことはできるはず。

事業の必要性の精査を

これは小規模な事業の例ですが、大がかりな工事になる道路建設でも、国の基準が春日部市にとって必要なのか、精査することが求められます。

国の進める有利な財源の活用ばかりに目を向けるのではなく、本当に活用するとはどういうことなのか、それを常に求めていかなければならないと思っています。

一緒に市議会を 変えていきませんか

41・28%、この数字は、4年前の春日部市議会議員選挙の投票率です。平成18年の投票率よりも5%以上低くなりました。さらに、昨年行われた市長選挙では、26%にも満たない投票率となりました。

春日部市だけでなく、全国的に地方選挙の投票率の低さが問題になっています。あと一か月足らずとなった今回の市議会議員選挙はどうなるか、気になるところです。

道半ばの議会改革

「市議会なんかいらんのではないのか」、「誰が議員になっても同じ」そんな批判を受けて、市議会としても信頼される議会、市民の皆さんに説明責任を勝たせる議会活動をめざして、議会改革に取り組んできました。「議会基本条例」を制定したあとに、条例に基づいて改革を進めるための特別検討委員会もこの3月議会で一旦閉じ、今後は新たな議員の手に改革は委ねられます。

今まで実現した主な改革は、議会報告会の開催、一般質問での一問一答方式と執行部の反問権の導入、議員活動・議会活動のホームページ上での公開などです。

私が重要だと思っている「議論する議会」とするための議員間の討議や、市民との意見交換などは、これからの



大勢のご参加をいただいた、昨秋に行われた「議会報告会」

課題となっています。

投票することからはじまる

今回の選挙には、多くの新人が立候補すると見られています。新人候補がどんな議員活動をするのか未知数ですが、また期待も大きいものです。インターネットによる選挙運動も一部可能となり、得られる情報はふえています。じっくり検討していきたいものです。

大事なことは、自分が投票した候補者が当選したら、その後どんな議会活動をするかを見守ることだと私は思っています。それが議員を育てることにつながり、市民の期待に応える議会となることにつながると思っています。

私は、この4月で議員を退くことにしました。4期15年間、お力添えをいただき、充実した議員活動を送ることができたことを、心から感謝しております。